

カストロ、最後の非核・平和論（2010）

Global Research
June 03, 2023
原文発表は November 2010

カストロは言う。「核戦争が起これば、全人類の命が“巻き添え”になる。いまそれは急速に現実化する可能性がある」

主見出し

Global Research and Cuba Debate 19 November 2010
“In a Nuclear War the Collateral Damage would be the Life of All Humanity”
Fidel Castro

サイド見出し

Conversations with Fidel Castro. The Threat of Nuclear War is Real. "The imminence of a dangerous and probable war that could very rapidly evolve towards a nuclear war"

<https://www.globalresearch.ca/conversations-with-fidel-castro-hiroshima-and-the-dangers-of-a-nuclear-war-2/32243>

By Fidel Castro Ruz and Prof Michel Chossudovsky

.....
以下が対話部分

01 通常戦争と核戦争

チョスドフスキー

人類全体に影響する基本的な問題についてお話する機会をいただき、大変光栄に思っています。

まず最初の質問ですが、アピールで語られた言葉で、「核戦争のリスクが“ホモ・サピエンスに対する脅威”である」というのはどういうことでしょうか？

カストロ

数年前から、特にここ数カ月は、戦争の危険が間近に迫っているような気がします。しかもそれは、通常戦争から核戦争へと急速に発展する可能性があります。

世界の動きを見る場合、これまでは資本主義システム全般と、帝国主義の専制政治が人類に課している危険と困難の分析、いわゆる「帝国主義論」に力を注いできました。

いまや米国は資本主義の盟主であるだけではありません。人々と社会の最も基本的な権利の侵害者です。それは自分勝手な論理を好き放題、世界に押し付けています。

チョストフスキー

冷戦時代、60年代以降はソ連とアメリカの間に MAD（相互確証破壊）と呼ばれる“紳士協定”が結ばれていました。核の不使用と平和共存の体制が継続していました。しかし核不拡散体制は冷戦終結とともに終わりました。冷戦後、特に2001年9月11日以降、アメリカの核ドクトリンは、自分に好都合なように書き換えられ始めました。これが「再定義」（定義変更）と呼ばれるものです。

カストロ

私は半年前のイラン危機発生以来、核戦争の危険が差し迫っている感じるようになりました。2010年6月9日、国連安保理はイランが行っている高度濃縮ウランの生産を非難し、決議1929号を採択しました。12カ国が賛成票を投じ、1カ国は棄権、2カ国（ブラジルとトルコ）は反対票を投じました。

決議採択の後イラン情勢は緊張度を増しました。戦闘部隊を組み込んだ米空母1隻と原子力潜水艦1隻が、エジプト政府の支援を受けてスエズ運河を通過しました。イスラエルからの海軍部隊も加わり、ペルシャ湾とイラン近海に向かいました。

米国とその NATO 同盟国が課した経済制裁は、乱暴で不当なものでした。軍事脅迫と経済制裁は政治状況をひどく複雑化させ、世界を戦争の瀬戸際に立たせました。

02 イラン制裁に反対しなかったロシア・中国

チョストフスキー

安保理決議のあと、ロシアと中国もイランに対する軍事協力を削減しました。特にロシアは、防空のための S-300 システムを提供してきましたが、決議の数カ月後には軍事協力を凍結しました。イランの防空体制非常に深刻な状況に直面しています。ロシアや中国に対する脅しは、イランと戦争になったとしても一切介入するなという脅しです。アメリカや NATO にとって、これは

中東での戦争を拡大する地固めなのです。これが昨今（2011年）の中東をめぐるシナリオだと思います。

ロシアや中国に向けられる脅威には、さまざまな種類があります。南シナ海、東シナ海、カシミール、台湾海峡など、中国の国境が軍事化されています。

欧米諸国はイランの防空システムを弱体化させ、その状況下で、イランとの戦争に道を開こうとしており、そのための合意を形成しつつあるのです。

フィデル・カストロ

私の意見だが、ロシアと中国は拒否権を行使すべきだった。アメリカに妥協をしたために、状況がより複雑になっています。イランにS-300を供給するという契約が結ばれていたのにロシアは破棄してしまった。

中国にとって石油エネルギー確保は非常に重要なことです。なぜなら、中国は最も経済成長率の高い国だからです。経済が成長すれば、石油やガスの需要も大きくなります。

最悪のリスクは、イランで戦争が起きたら、その戦争はどういうふうに進展するかということです。本格戦争になったら、勝負は決着がつかず泥沼化するでしょう。イランは良く訓練され、強い戦意を持った何百万人もの戦闘員を持っています。

中東の人々は欧米に対し強い憎しみを持っています。イスラム世界に対する戦争に勝とうなどと考えるは全くの狂気です。アフガニスタンの人々は、アメリカの無人機によって毎日殺されています。イラク人は、ブッシュがはじめた戦争が起きてから、100万から200万人の同胞が死ぬのを見てきました。中東の人々の怒りに勝てる武器はありません、核兵器を除いては...

フィデル・カストロ

通常戦争でアメリカが負けるのは確実です。何百万人もの人々を相手にした通常戦争には誰も勝てません。彼らは疾風のように現れて、疾風のように去っていきます。蝶のように舞い蜂のように刺します。彼らは、アメリカ人に殺されるために、自分たちの軍隊を一箇所に大量に集中させるようなマネはしません。

私はゲリラ戦士でした。当時は持てる戦力をどう使うかについていつも真剣に考えていました。戦力を一箇所に集中させるというミスは決してしませんでした。戦力が集中すればするほど、大量破壊兵器による犠牲者が増えるからです...

ミシェル・チョスドフスキー

あなたの指摘は最も重要なポイントです。中国とロシアの安保理での決定、すなわち決議 1929 の支持は、彼らにとって甚だしく有害です。

ロシアは兵器の輸出ができなくなり、その主な収入源が凍結されてしまいます。イランはロシアの兵器の大事な顧客であり、ハードカレンシーを獲得できる収入源です。イランからのドルがロシアの消費財経済を支え、国民のニーズを満たしていました。

中国も同じです。中国はエネルギー源へのアクセスを必要としています。国連安保理決議はイランに害を与えるだけでなく、実はそれ以上にロシアと中国に害を与えるのです。だからこれは非常に深刻です。

フィデル・カストロ

私は一般的な状況をこう見ています。通常戦争ならアメリカが負けるでしょう。かといって核戦争は誰にとっても代替案にはなりません。なぜなら、核戦争は必然的に世界的なものになるからです。

イランの現状にはとんでもない危険が内在します。戦争の道を突き進めば、それは結局、核戦争になってしまうからです。

ミシェル・チョスドフスキー

つまり、アメリカとその同盟国は、通常戦争には勝てない。だから核兵器を使おうとしている。しかし、それも勝てない戦争である。そればかりか人類は「巻き添え」を食ってすべてを失う、ということです。

フィデル・カストロ・ルーズ

この戦争では、誰もが敗者になるでしょう。核が解き放たれたら、ロシアは何を得るだろう？ 中国は何を得るのだろうか？ どんな戦争になるのだろうか？ 世界はどう反応するだろうか？ 世界経済にどう影響するのか？ しかしもっと深刻な影響があります。それは、核兵器を通常の戦術兵器に変えてしまおうとするペンタゴンの試みです。

03 核兵器が通常兵器に転用される？

今日のニュースでは、「広島と長崎の市民が、核兵器が通常兵器に転用されることに強い抗議を示している」と書いてありました。

読みます。「アメリカは臨界前核実験を行った」 続けます。「米国の核実験は広島と長崎を憤慨させている。彼らは“臨界前”というのは嘘だと言っている。長崎県の中村法道知事は、記者会見でこのように述べた。「オバマ大統領が核兵器廃絶のリーダーシップを発揮してくれることを期待していただけに、深く遺憾に思う」

ワシントンは、「これらの実験が包括的核実験禁止条約（CTBT）に違反しないと考えている。なぜなら核エネルギーを放出することはないからだ。それは核兵器の“安全性”を維持するために必要だ」

彼らのいう安全性というのは使う人の安全性であって、使われる = 狙われる人の安全性とは全く関係ないのです。

チョストフスキー

イランに対する脅威の問題に戻りましょう。核兵器通常戦争に勝てなかった場合に、通常戦を補完するために使用される可能性があります。これは明らかに、イランというよりは人類に対する脅威です。

なぜ私が心配するか、冷戦後、「人間の顔をした核兵器」という考え方が生まれたからです。「核兵器は本当に危険なものではない、民間人に危害を加えるものではない」というもので、核兵器のレッテルが変更されました。今や彼らのクライテリアによれば、「戦術核兵器」は通常兵器と何ら変わりません。米軍の軍事マニュアルには、「戦術核兵器は民間人に害を与えない兵器である」と書かれています。

したがって、このような事態が発生する可能性があります。すなわち、「イランを核兵器で攻撃する作戦に従事する人たちは、それが人類全体に恐ろしい結果をもたらす危険性に気づいていない」という可能性です。

彼らはこう言います。「私たちの基準によれば、この戦術核兵器は民間人にとって安全な兵器であり、冷戦時代に配備されたメガトン級の巨大核兵器とは異なるものである」

そう言う人たちは、そう言うからには、ひょっとしてその言葉を信じているかも知れません。だから、世界の安全保障を脅かすことのない兵器として、イランに対して使用することができると考えているかも知れません。

それは極めて危険です。彼ら自身が自分たちのプロパガンダにハマってしまって、それを信じているのですから…。しかしそれは違います。それは軍隊の中、政治機構の中ででっちあげられた内部プロパガンダにすぎません。

2002年から2003年にかけて「戦術核兵器」カテゴリが再分類されました。そのときエドワード・ケネディ上院議員は強く警告しました。「それは正しくない。それは通常兵器と核兵器の境界を曖昧にする方法だ」

しかし10年後の今、それが現在の私たちのデフォルトです。いまや核兵器がカラシニコフと変わらないと考えられている時代なのです。大げさかも知れませんが、核兵器は今やペンチやのこぎりのように道具箱の中の道具の一つなのです。そこから使用する兵器の種類を選ぶのです。核兵器は通常戦争の舞台で使用される可能性があります、

核兵器が通常戦場で限りなく通常兵器に近い武器として使用され、それが地域核戦争シナリオ、さらには世界核戦争という想像を絶する事態に発展するかも知れないのです。

フィデル・カストロ

戦術核の威力は幅があります。広島型原爆の3分の1から、広島型の6倍の威力に及びます。しかし小型原爆の代表として広島型を考えることはおよそ非人間的です。それは一発の爆弾で10万人を即死させました。その6倍の威力、2倍の威力、同等の威力、30%の威力を持つ原爆...実にばかげた比較です。

作戦地域の軍隊にも使用できる人道的兵器として使おうという試みもあります。これも使用基準の容易化を考えれば、恐ろしいほど非人道的な兵器となります。使用指示する者にとっても、指示を受けてボタンを押す人間にとっても、それは当然のようにこなすべき日常業務となるのです。

チョスドフスキー

私は将来的にも、核兵器が中央集権的な司令機構（戦略司令部など）の承認なしに現場で使用されるようになるとは考えていません。しかし、アメリカ大統領や最高司令官の承認、例えば冷戦時代のRed Telephoneといった手続きなしに使用するようになる可能性は存在すると思います。

フィデル・カストロ

ペンタゴンとアメリカ大統領との間には歴史的に対立がある。そのことを考えると、ペンタゴンがどう判断するかについては、ほとんど疑問の余地はありません。

04 通常兵器とは次元の違う核の被害

チョスドフスキー

もう1つの要素があります。私が知る限り、戦術核兵器の配備は、NATOに加盟しているヨーロッパのいくつかの国によって行われています。ベルギー、オランダ、トルコ、イタリア、ドイツがそうです。このように、「小さな核爆弾」はたくさんあります。

その際忘れてならないのがイスラエルです。イスラエルが単独で戦争を始めるといって、それは戦略的にも意思決定的にも無理があります。通信も兵站も何もかもが一元化された現代戦では、大規模な戦争の開始は一元的に決定されるでしょう。しかし、米国がイスラエルに先制攻撃の許可を出せば、イスラエルは行動するかもしれない。

イスラエルとイランとの戦争は、レバノンやシリアの国境地帯で通常の小競り合いから始まるという筋書きを描くアナリストもいますが、それは論理的可能性のレベルです。しかしその小競り合いが軍事作戦をエスカレートさせる口実となる可能性はあります。

フィデル・カストロ

昨日 10 月 13 日、レバノンでは大勢の人々がアフマディネジャド（当時のイラン大統領）をみずからの国民的英雄のように歓迎しました。実はレバノン人もイラン人同様に敢闘精神を持っています。そのことを考えるとイスラエルの懸念も理解できます。

レバノンには、第 2 次中東戦争の頃の 3 倍の迎撃ミサイルがあります。この兵器に対抗するためには攻撃ミサイルだけでは不足で、空軍による爆撃が必要です。そのため、イスラエルがイラン攻撃に専念できるのは最初の 3 日間ではなく、最初の数時間だけです。これはイスラエルに加わった新たな不安です。

ほかにも懸念材料があります。レバノンの保有する兵器は、闇市場で買ったカラシニコフではなく、性能の安定した、修復可能なイランの制式兵器の一部です。

ほかにもイランの通常兵器の中には、カスピ海で他国の水上戦艦と戦うための何百というロケットランチャーがあります。軍関係者はフォークランド紛争の経験から、水上艦艇は 1 発、2 発、3 発のロケット弾をかわすことができると知っています。しかし、大型の軍艦が雨あられと降り注ぐロケット弾から身を守ることができるでしょうか。

核兵器が登場する前の先の大戦で何が起こったか。通常兵器の破壊力だけで 5 千万人が死亡しました。それどころか 19 世紀に行われた戦争でさえ、すでに非常に破壊的なものでした。しかし今日の戦争は既にそれとは次元の違うものです。

核兵器が使用されたのは、トルーマンが使いたかったからです。トルーマンは、ウランから臨界量を生み出す広島原爆と、プルトニウムから臨界量を生み出す長崎原爆の両方を使ってみたかったのです。この 2 つの原爆で約 10 万人が即死しました。そのあとさらにどれだけの人が傷つき、放射線の影響を受け、後遺症で死んだり、その二次的影響にどれだけ長い間苦しんだりしたか、はかり知れません。

大規模な核戦争が来れば、もう一つの核の被害がもたらされます。それは核の冬をもたらすでしょう。

私は、戦争が起こった場合の危険性について、それがもたらすかもしれない直接的な被害について話しているのです。

限られた数の核兵器さえあれば十分です。インドやパキスタンといった、最も力のない核保有国のひとつが保有する程度の量で十分なのです。その爆発は、人類が生き残ることのできない核の冬を作り出すのに十分なものです。核の冬は8年から10年続くので、生存は不可能でしょう。数週間もすれば、太陽の光も見えなくなってしまうでしょう。

後編